

道徳通信

能美市立辰口中学校 平成29年 2月23日(木) NO. 11



2月の心のテーマ『生命』

あと数日で2月が終わり、いよいよ3月です。どの学年も1年間の締めくくりとなりました。卒業式まで、あとわずかです。辰中生全員で、今年も最高の卒業式にしましょう。2月の心のテーマは『生命』です。各学年で取り組んだ授業の様子をご紹介します。



1年道徳 「地図のある手紙」

豪雪地帯の郵便配達員である源さんのもとに、「沼の原」宛ての封書が届く。封筒には地図まで描かれていた。故郷を離れ東京で生活する一郎が、とうに亡くなっている両親に宛てた手紙だった。源さんは宛先の場所まで雪をかきわけその封筒を運ぶ。ソトウバの前で取り出し読み上げた手紙のインクはにじんでぼやけていた……。

◎インクがにじんでいたのはどうしてでしょう。

<みんなの考え>

～源さんの涙～

- ・死んだ親に手紙を書き源さんにたくした一郎の気持ちを考えて…「かえってこい」
- ・汗と涙。読みながらのどを詰まらせて。
- ・「源さんが配達する」のをわかったうえで手紙を出している、とわかって。
- ・一人でがんばっている一郎の思いを察して、想像して…。寂しいはずなのに…。
- ・「ぼくは一人でやっていけるよ」という一郎の思いを感じて。
- ・手紙最後の部分から、「今、一番頼りたいのが親なのかな」と感じたから。
- ・「さようなら」を親だけでなく自分にも言っているような気がしたから。

～一郎の涙～

- ・一郎が泣きながら手紙を書いたから。両親が恋しくて。思い出して。悲しい。辛い。時間は経ったけどまだたまに思い出して…。親に頼りたい。会いたい。現実をつきつけられて。
- ・この世にいなくても心に宿っていると思い…。

◎この話を読んで、感じていること

<みんなの考え>

～源さんの思い～

- ・源さんは一郎のことを心配しているから素直になってほしいし、我慢してほしくないというようなことを思っているのかなあと思ったりして、ちょっと切なくなった。
- ・「一郎のばかやろう」という思いは、完全ではないけれど何となくわかるような気がしました。自分も友だちが大きくなげとか病気とかをしたら「ばかやろう」って思ったころがあります。この「ばかやろう」は心配の意味を込めてのばかやろうなんじゃないかと思います。
- ・源さんの「ばかやろう」は、もう少し頼ってもいいぞと一郎に言っているみたいでした。
- ・源さんに、思いを届けてほしいと思っているのだと思います。
- ・誰しも、親が恋しくなってももう親は亡くなっている、みたいな感じには、現実を直視させられるようで胸をしめつけられるなと思いました。



みなさんに知ってほしいこと

おなじ地球の上に生きていながら、貧しさのために食事をとれずに亡くなる人がいます。

2秒に1人
1日で4万人
1年間で1500万人

1日で4万人
1年間では1500万人もの人が
かけがえのない命を落としています。

この世界に暮らしている70億の人々全てが食べていけるだけの食べ物は十分にあるのです。なぜ、食べることができずに死んでしまう子どもたちがいるのでしょうか？



私たち日本人など（世界の10人に2人しかいない豊かな国に住む人）が世界の食べ物の70%近くを食べてしまうから。

残りの30%の食べ物を
10人に8人の貧しい国の人々が分け合っている。
だから足りないところが出てくる。

さらに日本では食卓に出された食べ物のうち20%もの量が残飯として捨てられている。

ある調査では、その残飯の量でアジアの人々1億人が飢えから救われると言われていました。



生徒の感想

- ◇日本がちょっとがまんするだけで多くの人が生きられるとわかりました。これからは残さないようにしてありがたくご飯を食べようと思います。（女子）
- ◇ごはんを食べたり、学校へ行くことは当たり前じゃないことがわかりました。給食の好き嫌いをなくしたいと思った。たくさんのご飯を食べられることはとっても嬉しいし、感謝したいです。（女子）
- ◇同じ地球上の人なのに日本人は残飯が多いことにショックを受けました。動物を同じように大切に扱うことも重要な課題だと思いました。（女子）
- ◇人間のせいで温暖化になっているので、電気の使い過ぎには気をつけたいです。これからの生活でも意識していきたいと思いました。（女子）
- ◇地球温暖化が急速に進んでいることが分かったので、しっかりエコをしようと思いました。（男子）
- ◇もうすぐ氷河期が来るとか聞いたことがあるので、この先地球はどうなる？と不安になりました。（男子）
- ◇たった1秒で0.03種の動物が絶滅しているというのはすごくショックでした。（女子）
- ◇地球が今すごく危機にあることが分かった。10人中8人がご飯を食べられないのを聞いて給食をありがたいと思って残さず食べたい。（男子）
- ◇偶然豊かで平和な日本に生まれたおかげでありがたい生活を当たり前のようにできますが、同じ人間なのに飢えで亡くなる人がいる事を知って胸が痛みました。出来ることを考えて行動していきたいです。（女子）

関連DVD 「1秒の世界」より

なんと1秒間でこんな変化があるのです！

1秒間に

1万9,000杯のカップにコーヒーが注がれ…
688kg(おにぎり8600個分)の食品が日本で食べ残されて生ゴミとなり…
888トンの二酸化炭素が排出されています。

1秒間に

地球は太陽から486億kWhのエネルギーを受け…
植物の中で最も速く生長する竹が、10ミクロン(0.01mm)伸び…
0.002種、7分に1種の生物が絶滅しています。

1秒間に

畳48枚分、78m²の土地が中国で砂漠化し…
田んぼ2.3反分、2,300m²の耕地が減少し…
ミミズが0.17mgの土を食べています。



2年道徳 「平和について考える」



修学旅行を春に控えた2年生は、総合の時間では広島平和学習として広島で起こった原子爆弾の悲惨さを、調べ学習を通して学んでいます。それと同時に、道徳の時間では、様々な視点から日本の平和について考えました。数回にわたる平和についての道徳を通して、みなさんの心に浮かんだ平和についての想いを紹介します。

授業の感想

- ・戦争はもう終わったものだと思っていたけれど、まだ日本には至る所に傷跡が残り、苦しんでいる人がいるということが分かった。そのことを忘れず、毎日を大切にしていきたい。
- ・改めて思ったことは、今ある平和な世界は、昔の人が戦争でたくさん犠牲になって傷ついて、でも諦めずに頑張ってくれたからこそあるのだと思った。
- ・戦争は嫌なことばかりだと思っていたし、今もそう思うけど、沖縄などに基地があるおかげで、その恩恵を受けている人もいることに気が付いた。
- ・基地があるからこそ、スポーツする場所や小学校が出来ていることが分かりました。
- ・沖縄にアメリカの文化が入ったからこそ、いま私たちが聴いている有名な歌手や音楽が日本でも浸透していることが分かった。当たり前で聴いていたけど、驚いた。
- ・基地のある地域は、基地の恩恵もたくさんあるけど、辛くて悲しいことも多かった。いろんな判断を下すのは、難しいと思った。
- ・基地があるせいで苦しんでいる人がたくさんいることが分かった。
- ・私たちは石川県に住んでいて、基地のある暮らしや戦争とは関係ないと思っていたけど、能美市にも戦闘機の部品が落ちたりして、被害があったことが分かり驚いた。

2年道徳 「朝の来ない夜はない」



みなさんが小さい頃からよく知る国民的ヒーロー「アンパンマン」。東日本大震災の後、NHK のラジオ放送にリクエストが殺到したことから、改めて「アンパンマン」とその歌に込められた作者「やなせたかし」さんの想いについて考えることとなりました。「なんのために生まれて なにをして生きるのか」生きていること、それ自体が素晴らしいことではないでしょうか。

授業の感想

- ・アンパンマンに込められたやなせたかしさんの想いを知ることが出来て良かったです。
- ・アンパンマンはいつもジャムおじさんとかの力を借りていてちょっとずるいなあと感じていたけど、そこには人間の弱さや人間らしさがあり、だからこそアンパンマンはずっと人気なのだと思いました。
- ・被災した人たちを元気にするほど、この歌にはいろいろな意味があるのだと分かった。
- ・一つの歌でたくさんの人に希望を与えていて本当にすごいと思った。歌詞の意味がとても深く、聞く人に「もう一度頑張ろう」と思わせるなんてすごいと思う。
- ・生きる喜びなんて考えたことが無かったけれど、改めて自分の胸に問いかけたいと思った。
- ・これまで、アンパンマンの歌にたくさん勇気づけられた人がいたのを知り、この曲が持っている力はすごいと思いました。
- ・今日の授業で、生きることがとても大切だということが分かった。どんなことがあっても生きていけるように頑張りたい。
- ・「朝の来ない夜はない」の言葉通り、落ち込んでも立ち直ろうと思った。
- ・震災の時、人の死に直面した人がいるかもしれない。そんな絶望の中でも、勇気を取り戻す位、人の言葉の力というのは、すごいものと思った。
- ・辛そうな人には、優しい言葉をかけたいと思った。

3年道徳 「ドナーカード」

医療技術の発達は、私たちが寿命と考えている生存の時間を飛躍的に延長させました。しかし、それと同時に、技術の高度化は『生命』に対する倫理的な問題や課題を投げかけることになりました。臓器提供意思表示カード、すなわち「ドナーカード」も、その中のひとつです。



今回の道徳では、実際に息子さんを事故で亡くし、臓器提供の判断を迫られたご夫婦のお話と、「脳死」「臓器移植」の問題に市民としての率直な感想が述べられた朝日新聞の投書を資料として扱いました。毎年、この時期になると3年生で取り組む道徳です。

「臓器提供」という難しい内容ではありましたが、授業を通して、決して軽々しく扱われるべきではない「命の重さ」、そして「命の尊さ」について改めて考えることができました。

〈授業を終えての感想〉 中学3年生の素直な意見が述べられています。

臓器提供を認めるか、認めないかの判断を迫られている人の辛さを知りました。誰かのためになるとわかっていても、大切な人の死を認めて、臓器提供をする決断をするのは難しいと思いました。自分なら臓器提供をしてもいいけど、自分の大切な人の場合だったら、正直嫌だとも思いました。

自分が死んだときは臓器を提供したいと思ったけど、やはり大切な人がまだ温かいのに、自分が死と認めてよいかは悩むところだと思います。家族ならなおのこと拒むと思います。ですが、臓器を提供すれば助かる人がいるのも事実なので、どちらがいいのか決められません。

私は今年の夏に意見文の発表会で、友達が病気でドナーを待っている人の話を聞きました。そのとき、「私なら臓器を提供する」と思っていたけど、今日、自分の親は私が脳死した場合、臓器提供をすることをためらい、悩むのかな・・・と思い、考え直してみたいと思いました。

自分が提供する立場だと、とても判断しきれなかった。まだ自分が死んでしまうとは思えないからこそ、判断できないのだと思う。軽々しく考えず、自分のことだけではなく、周りの家族のことも考えて、これから判断していきたい。

臓器提供について考えることはとても難しいと感じたけれど、いずれは自分も考えなければいけない大切なことだと思います。提供を待つ人がほんの少しの可能性にかけているのと同じように、提供する側にも意識が戻る可能性を信じていたいという思いがあると分かったので、どちらの意見も尊重して考えるべきだと思います。

今日の道徳では、「命」について深く考えることができました。自分がその立場になったら・・・。大切な人がその立場になったら・・・。普段考えないことが学べたのでよかったです。

「ドナーカード」という道徳の授業をして、ひとつの命、ひとりの人間を大切にしようと思えました。もらいたい、もらいたくない、提供したい、提供したくない、というのは、時と場合によると感じました。自分はもし、相手側に生きる希望があるのであれば、提供しようと思えました。

話を聞いて、この決断はとても重要なものだと思います。もし自分だったら、自分より生きる可能性のある人に提供したいけど、大切な人の場合だったら、すごく迷うと思います。簡単には決められないです。

正解のない問題、軽々しく扱えない問題ですが、いずれにせよ「命の大切さ」について改めて考える時間となったようです。「かけがえのない命」を大切にしてください。